

はまぼうふう vol.7 2002. 7. 15.

石狩浜海浜植物保護センター通信

真夏。浜辺の砂は照りつける日差しに熱せられ、海浜植物たちにとって、最も厳しい季節です。このような熱い砂地の上で、海浜植物はどのように生き抜いているのでしょうか。

砂を掘ってみましょう。20cmほども掘れば、湿り気が出てくるのがわかります。海浜植物の生き抜く力は、砂地に深く下ろす根にあります。深く下ろした根がある限り、地上がどんなに熱く乾燥しても、水を得ることができるのです。たとえ葉が枯れても、地中で生き続けているものも多いのです。

やがて日差しがやわらかくなる秋、再び若葉を地上に広げるハマエンドウやハマボウフウがたくさんあるはずですよ。



ハマボウフウの根っこは、40cm掘ってもまだ下へのびていたよ。(6/29こども自然教室にて)

いしかりはま じょうほう 石狩浜花情報

夏～初秋の季節は、はまなすの丘の「あずまや」周辺で湿地の花が楽しめます。

カセンソウ	ナミキソウ	ノギリソウ	ヒロハクサフジ	クサレダマ
				
黄・7～8上	青紫・7～9	白・7～8上	青紫・7～9下	黄・7下～8下

ナガホノシロワレモコウ	エゾミソハギ	サワギキョウ	オグルマ	コガネギク
				
白・ 8中～9上	桃・ 7下～8下	青紫・ 8中～9上	黄・8中～9中	黄・8下～9下

※右下は、「花の色・花の見られる時期(月)」を表します。

砂地の花たち				
ハマニガナ	ウンラン	ハマエンドウ	オカヒジキ	ハマナス実
				
黄・～10上	黄・～10上	青紫・～10上	黄緑・8中～9上	赤・～10中

虫たちの痕跡

～葉っぱに付いた丸い玉の正体～

この時期、石狩浜を散策していると、カシワの木の葉についた赤い玉や、ヤナギの葉についた黄色いマメのようなものが目に付くようになります。観察会では、「あっ、実だ」と言って発見されることも多いですね。しかし、はたして、これはカシワやヤナギの実なのでしょうか？

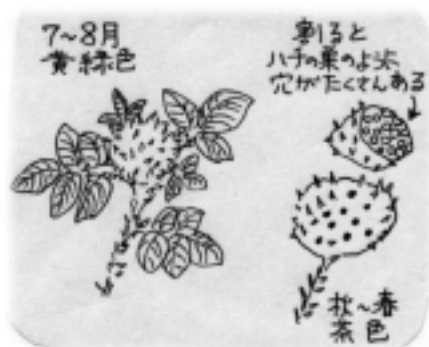
いいえ、これは、「虫こぶ」「虫えい」などと言われるものです（カシワの「実」はドングリ、ヤナギの「実」は綿毛です）。小さな虫たちが、葉っぱの汁を吸ったり、何か特殊な物質を葉の組織に注入したりして、細胞を異常に増殖させた「葉っぱのガン」のようなもの。

中には、小さなハチやハエ、アブラムシの仲間の幼虫が入り、内側の壁（つまりは葉っぱの組織）を食べて育っています。植物ごとに中に入る虫には名前がついており、虫こぶには名前がついています。一つの虫こぶの中に入っている数や、中から出てくる時期も、種類によって異なります。

隠れ家、そして食事場となるその「虫こぶ」は、幼虫たちにとって大そう便利で心地よい「ゆりかご」なのでしょう。本当に多種多様な虫が、「虫こぶ」をつくるのですから！！

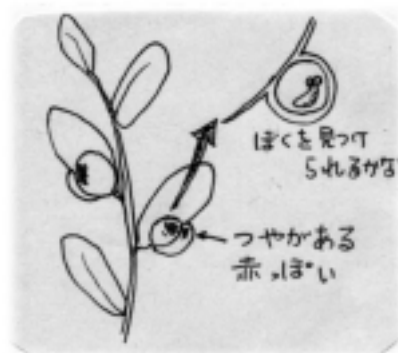
さて、石狩浜でよく見かける虫こぶを3つほど紹介しましょう。

カシワハマルタマフシ：カシワの葉の裏の葉脈上につくられます。径7～8mmほどの球状の虫こぶで、7月中旬から現れ、9月頃に落下します。中の幼虫室は一つで、1mmほどの幼虫一頭が壁を食べて生活しています。落下後、幼虫はさなぎになって、11月末～12月上旬に、成虫（タマバチの仲間）となって出てきて、冬芽に卵を産みます。



ハマナスメトゲコブフシ：ハマナスの若芽につくられます。6月下旬頃から現れ、8月中旬には径3～5cmほどの、表面にトゲが密生するこぶ状のかたまりになります。内部には、径2～3mmの多数の幼虫室があって、1つの虫こぶに数十匹の幼虫が入っているそうです。虫こぶができたその年の夏は、黄緑色で水分を含みますが、秋には茶色になり、水分を失って堅くなります。幼虫は中で越冬し、翌春さなぎになり、初夏に虫こぶの中から成虫（タマバチの仲間）となって出てきます。

ヤナギハフクレフシ：ヤナギ（イヌコリヤナギ）の葉につくられ、葉の付け根に近い部分が、裏表に大きくふくれます。径1cm前後の楕円の球状で、黄緑色～赤色です。中は一つの広い幼虫室になっていて、白色の幼虫一匹が入っています。この虫こぶは初夏から現れ始め、9月下旬には、幼虫は虫こぶに小さな穴をあけて外へ出ます。さなぎ（前蛹）となって地中で冬を越し、翌春に成虫（ノバチの仲間）になります。



植物の葉や枝先に付いた小さなコブ、見つけたら、一つちょうだいして、そっと割ってみて見ましょう。小さな小さな幼虫を見つけられるでしょうか？

（参考：虫こぶ入門・原色虫こぶ図鑑）

みどりの里親活動報告

海濱植物の苗を家庭で預かり、大きく育てたものを石狩浜に持ち寄って植える「みどりの里親」は、海辺に育つ植物にふれ合い、親しみを深めるとともに、みなさんの手で石狩浜の自然を美しく守り育てていくことを目指し、今年からスタートした活動です。

4月29日に、海濱植物の苗を72名の里親のみなさんが持ち帰りました。まだ芽吹いて間もない小さい苗は、里親の手元で育てられ、6月22日、植生の美しい石狩浜ビジターセンター周辺に移植されました。ハマボウフウ、ハマナス、エソカワラナデシコ、ハマハタザオ、ハマエンドウ、ノコギリソウの計6種類。

野草の小さな苗は、水が乾けばあっという間にしおれてしまいます。今回、枯れることなくお持ち寄りいただいた苗は、半数ほどでしょう。自然の中でも、同様、あるいはもっと厳しい環境にあり、大きな株に育つものは、ほんの1%にも満たないほどなのです。たまたま良い環境にタネが落ちたもの、体力のあるものが生き残っていきます。あとのものは、枯れて大地へ帰っていくのです。



↑4月29日 センターでの苗配布

今回は、芽を出して間もない苗を砂地で育てるとい、少しむずかしい育苗に取り組みましたが、ノコギリソウがつぼみをもつまでに大きく育てた子もいました。

ノコギリソウ、ハマナス、ハマエンドウを育てた里親の一人、手稲区の台蔵さんからの育苗日記をいただきました。ハマエンドウが力強く若葉を出して育っていく様子、繊細なノコギリソウが、少しずつ大きくなる様子、残念ながらハマナスが枯れていく様子などが、愛情込めてつづられていました。その中から、最後につづられていた感想を紹介します。



↑持ちよった苗 これは大変よく育ったものです。

～植物を育ててこんなに神経を使ったことはなかった。園芸種はわりと簡単なのに、やはり野草は自然が一番なのかと大きな反省です。若者が言っていました。自然が壊れるという事は、人間も壊れていると・・・。
気がついたところから始めたらいいと思う。一人一人の力は小さくても、一つになれば大きな力になると。とてもよい経験となりました。

手稲区 台蔵郁子～

台蔵さんは、地域のFM放送で石狩浜の「みどりの里親」の活動を紹介したところ、それをきっかけに、聴いていた若者たちの間で、自然と向き合っていくことについての様々な議論が交わされたそうです。

市内の幼稚園での参加、こどもエコクラブでの参加もありました。小さな海辺の野草を育てることを通して、自然界の小さな生きものたちへの思いやりが育まれることを願います。



友愛幼稚園のお友だちは、手で砂をほって苗を植えました。→

石狩海浜植物保護センター地域交流活動

～石狩・名取・七ヶ浜「ハマボウフウ」交流会開催～

期 間 7月19日～7月21日

開 催 地 宮城県名取市閉上・七ヶ浜町北電力新山台火力発電所東側

交流 団体 名取ハマボウフウの会・七ヶ浜ハマボウフウの会

石狩浜代表 安田秀子(石狩海浜植物保護センター運営委員会会長)・瀬野一郎(同運営委員会副会長)
前野華子(石狩海浜植物保護センター技師)

宮城県名取市は、仙台市の南に位置する人口およそ6万人のまちです。名取川の河口から南方へ向かって続く閉上海岸は、かつて、子どもたちが裸足で走りまわり、熱くなった砂の上をハマボウフウの葉を踏んで足を冷やしながらか水辺まで走ったというほど、ハマボウフウが豊かに茂る海辺だったそうです。気がつくと、海岸工事のためのトラックや、RV車が砂浜を走り、ハマボウフウは消え、ごみがあふれている。子どもたちの足も、いつしか砂浜から、遠のいていました。

変わり果てた閉上の浜に、むかし遊んだハマボウフウ豊かな海辺に取り戻そうと、地元の農業や漁業に携わる方、その他閉上を愛する様々な人が加わり、昨年より活動を始めたのが「名取ハマボウフウの会」です。会の代表、大橋信彦さんは、一昨年、石狩浜で活動する石狩海浜植物保護グループ、オープンして間もない石狩海浜植物保護センターを訪ね、石狩での海浜植物保護活動を視察、閉上海岸へ石狩での活動の手法を持ち帰ったのスタートでした。



←閉上海岸での名取ハマボウフウの会の活動

名取ハマボウフウの会では、閉上の浜にハマボウフウを呼び戻すとともに、ハマボウフウを地域の特産物として広めていくことを目指し、地域を上げて活動に取り組み始めています。まずは閉上の浜に0.5haほどの保護区を設け、地元農業高校や町内会で育てた苗(タネは海辺で発見された野生株から採種)をそこに移植すること、そして月1回の海岸清掃が今の活動です。

石狩浜では、保護区を設けることで回復し、今では観光の目玉ともなりつつあるハマボウフウの群生地、また、市民と市の協働による保護活動は、閉上の方たちの今後の活動に大きな刺激になったようです。

一方、名取ハマボウフウの会の地元町内会や学校と連携した保護活動、また、農業、漁業、商業に携わる人たちと手を取り合せて地域の特産物化を目指していく活動など、地域を上げての活動への取り組みは、石狩浜の自然を守り、活かしていくさらなる活動へのヒントを私たちに与えてくれました。

もう一つの訪問先、七ヶ浜町は、仙台湾の南岸に位置する海に囲まれた小さな町です。海辺は、火力発電所を含むコンビナートが並び、自然海岸の面影はわずか、海水浴場の際に残る程度。しかし、かつて砂浜だった火力発電所の敷地内には、ハマボウフウが数株、しっかりと生きていたのです。発見した火力発電所の職員、そして、むかし遊んだ海辺でたくさんのハマボウフウを見ていた地元婦人会のお母さんたちが手をとりあって、「七ヶ浜ハマボウフウの会」を今年6月に立ち上げ、七ヶ浜町でのハマボウフウの保護、増殖、そして栽培に取り組み始めたのです。

婦人会の支えるハマボウフウの会、ここにも、石狩とは一味違った地域の力を感じました。

それぞれの地域に見合ったふるさとの海辺の守り方、取り戻し方がありました。交流によって、互いの活動から学び取ることがたくさんありました。石狩での活動が東北地方の二つの海岸に活かされていくことを確言するとともに、地域の生活・産業と密接に結びついて展開されている名取、七ヶ浜の活動から学んだことを、石狩で活かしていけることを期待します。



砂浜に沿ってクロマツ林が続く閉上海岸。

左手前に残土の山その向こうが会のハマボウフウ保護区



かつての砂浜に建った火力発電所の敷地内。

ここにハマボウフウが見つかった。

石狩浜みどりの里親活動

4月29日（苗配布）～6月22日（苗移植） 参加者 72名

海浜植物の苗を自宅や幼稚園に持ち帰り、大きく育った苗を、石狩浜に移植しました。（詳しくは記事参照）

自然観察会

5月13日（土）10:00～12:30 参加者 19名

今年は季節が早く、イソスミレはピークを少し過ぎ、ハマエンドウの開花が始まっていました。ハマハタザオがとてもきれいでした。風がとても強かった。参加者の方、おつかれさま。

6月1日（土）10:00～12:30 参加者 29名

大人隊と子ども隊に分かれ、石狩砂丘をカシワ林から海まで歩きました。子ども隊は、フィールドビンゴで遊びました。実り始めたコウボウムギが人気者でしたよ。

6月16日（日）9:30～12:10 参加者 48名

ハマナス、エソスカシユリ花盛りの石狩川河口を散策。ノゴマやノビタキもよく見ることができました。北海道自然観察協議会との共催でした。

7月13日（土）10:00～12:30 参加者 14名

ハマボウフウの花が一面に広がる石狩川河口。湿地ではエゾノレンリソウやノハナショウブ、タチギボウシの花を楽しむことができました。



↑6月1日



↑6月16日

石狩希少植物調査

石狩浜や花川地区の防風林に生育する希少植物、エゾチドリ、チヨウジソウ、クロミサンザシの生育状況を、さっぽろ自然調査館の指導のもと、セターに集まったボランティアの方々と調査しました。

6月5日 参加者6名 花川・屯田地区

6月19日 参加者9名 石狩浜・厚田村シブ



Eゾチドリ



↑6月19日調査風景

石狩ふるさと自然塾

石狩の自然をもっと知り、伝え、活かしていく人を育てようと、海浜植物保護センターと石狩市環境課の共催で、今年度からスタートしました。受講生：28名（塾生は石狩市内からの希望者に限りました。）

5月10日 市内自然の概況（市内のおもな自然地域を周りました）

6月5日 石狩砂丘の自然（海からの距離と植物相の関係を調べました）

6月21日 はまなすの丘の地質・成り立ちと植生（砂の粒度分析をしました）

7月5日 はまなすの丘の植生（場所ごとに異なる植物相をじっくり観察しました）

6月21日セターでの受講のようす→



石狩浜こども自然教室

6月29日（土） 参加者 43名

フィールドビンゴで遊びながら海へ行き、お弁当を食べました。砂浜でハマボウフウの根っこを掘ってみたり、漂流物を集めたりしました。暑かった。つかれたね。

6月29日→



その他 6月15日 フラワーソン石狩浜にて、石狩海浜植物保護グループ・石狩鳥見の会、実施
7月～ 石狩浜植生調査（北大共同）

北の海辺の風景

先日、十勝川の河口に行ってきました。石狩川、天塩川に次ぐ北海道を代表する大きな川、十勝川。やはり河口には砂が集まり、ゆるい砂丘の上には、石狩浜でも見慣れた砂地を好む植物たちが育っていました。しかし、同じ時期の石狩浜とは、彩りが異なります。風景の中に一段と際立つ「黄色」の華やかさがあるのです。ハマナスやハマエンドウの赤や紫の中に、センダイハギの黄色が見事に映えていました。

石狩浜にはセンダイハギはありません。(厚田村との境付近にわずかに分布しますが) この時期の石狩浜で黄色を彩っているものは……。タンポポモドキ(ブタナ)です。昭和初期に日本へ渡来した帰化植物で、石狩浜では、この10数年ほどの間に著しく数を増やしたようです。他の海岸—天塩や浜頓別など—でも同様、この外国からの新参者は広がり、北の海辺の風景を変えつつあります。石狩浜では、最近、新たな侵入者キバナノコウリントンポポ(花期6月・黄色)も確認されています。

これらは、果たしてさらに数を増やして他の植物を追いやってしまうのでしょうか。あるいは、これ以上増えることなく、初夏の海辺の風景として親しまれていくのでしょうか。

北の海辺の景色をどう守り、どのように維持していくのか、この自然を楽しみ、活用していく私たちが、これから考えていかなければならないことです。(つづく)

↓十勝川河口のセダハギ



↓石狩浜のタナポポモドキ



8～9月の行事予定

9月13日 自然観察会

場所: 石狩砂丘

時間: 10時～12時30分

集合: 10時 石狩浜海浜植物保護センター

内容: コナギクやヒロハクサフジが飾る秋の石狩砂丘を、海岸林から海まで横断します。

定員: なし 申込締切: 13日

9月29日 こども自然教室

場所: 石狩浜海浜植物保護センター周辺

時間: 9時～12時30分

集合: 9時 石狩市役所または9時30分 海浜植物保護センター

内容: 秋の実り探し&自然の小物づくり

定員: 30名

申込締切: 9月22日 (応募多数のとき抽選)

9月11日～23日 石狩浜企画展

場所: 石狩浜海浜植物保護センター

時間: センター開館時間 ※17日(土)休館日

内容: 石狩川河口の生きものたち (予定)

10月6日(日) 浜の草木でリースをつくろう

場所: 石狩浜海浜植物保護センター周辺

時間: 10時～12時 定員: 20名

申込締切: 9月29日 (応募多数のとき抽選)

公民館との共催です。11月下旬に公民館で飾り付けをします。

行事への参加申込・お問合せ・通信に関するご意見等は、下記まで。

なお、11/4～4/28 は冬期閉館期間となりますが、情報はホームページにて常時発信しています。

石狩浜海浜植物保護センター 〒061-3292 石狩市弁天町 48 番 1

tel.0133-60-6107 fax.0133-60-6146 email:hamanasu@guitar.ocn.ne.jp

冬期閉館期間: tel.0133-72-3240 fax.0133-75-2275 (石狩市役所環境課)

石狩浜海浜植物保護センターホームページ URL: <http://www4.ocn.ne.jp/~ishi-ham/>